



## 今シーズン初表彰台を GET！勝利まであと一步！



シリーズ名：2021 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名：2021 AUTOBACS SUPER GT Round4 MOTEGI GT 300km RACE

レース距離：1周 4,801m×63周 (302.46km)

7月17日(土)

予選 Q1：国本選手 3位 / Q2：宮田選手 2位 /

公式予選

□天候：晴れ | コース：ドライ | 気温/路面温度 Q1 開始 33℃/46℃

7月18日(日)

決勝 2位

□天候：晴れ | 路面：ドライ | 気温/路面温度 開始:33℃/51℃

公式練習

2021年 SUPER GT シリーズ 3戦目となる第4戦は梅雨明けしたばかりのツインリンクもてぎにおいて 300km レースとして開催(第3戦鈴鹿は8月に順延開催)。例年もてぎラウンドは最終戦として



開催されるが、今年はこの第 4 戦と 11 月の第 7 戦、2 戦が開催される。昨年はマシンの調子は良かったものの不運に巻き込まれタイヤとなったが、今年は事前テストで見つけた新しいタイヤと共に勝利を目指しサーキットに到着した。

前日に梅雨明けした関東甲信越地方は、午前中からいきなりの猛暑となった。東京では非常事態宣言が出されているが、もてぎは人数制限が課されたものの有観客での開催となった。スタンドには GT レースの 2 か月半ぶりの再開を待ったファンが朝早くから多く詰めかけた。9 時 20 分からの公式練習は曇天で始まったが、すぐに雲は取れて真夏の太陽が顔を出し、気温も路面温度も急上昇。朝の練習走行では 2 種類のタイヤのチェックと 1 種類のタイヤのロングを確認した。トップと 0.138 秒差で 4 番手となる 1'38.756 を叩き出した。



### 予選

午前中の練習走行にて、4 番手のタイムを出した 19 号車。

まずは国本選手が Q1 担当。ここ 2 戦は予選開始後にコースインする車が見られたが、今回の予選では開始直後は、誰も出てこず、静かなスタートとなった。

そのような中、残り 8 分 20 秒に 19 号車はコースイン、残り 8 分を切るタイミングでその他の車が息せき切ってコースになだれ込んだ。

19 号車はタイヤを暖めつつ、周回を重ね、残り 2 分で一発アタックを開始。

メインストレートに戻ってきたタイムは 1:38.210 と暫定 2 位となる（その時点のトップは 16 号車）。

終盤に 1 号車がトップタイムを出す、それ以外は 19 号車のタイムを上回ることが無く、3 位で Q1 突破となった。

Q1 の結果は 1-16-19-37-36-3-38-64-（以下 Q1 敗退）-8-23-24-39-14-17-12。



Q2 のドライバーは宮田選手。10 分間の Q2 も静かなスタートとなり、開始直後にはどの車も出てこない。19 号車は残り 8 分半前に 64 号車に続いてコースイン、残り 8 分を切る頃から、各車コースインしてきた。

Q1 と同様に周回を重ね、残り 2 分でアタックを開始。37 秒台半ばがトップタイムとなる激しい戦いとなる中、19 号車が残り 45 秒で 1:37.549 と暫定トップのタイムを出す、直後に 1 号車が 1:37.498 を出したため、暫定トップの座を明け渡した。

宮田選手はさらにアタックを続けたが、セクター 3 のタイムがプラスとなった段階でアタックを止めピットに入り、2 位を確定させた。

Q2 の結果は、1-19-16-36-37-64-3-38。

決勝はフロントローからのスタート。前戦富士で取れなかった表彰台のトップを目指して爆走していきます。皆様の応援、宜しくお願いいたします。

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms

OKAYAMA Express

IGNITION POINT

DISELAID

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会

WOODOO RIDE



WellVets - Animal Welfare Group -

KDC

GLOBAL SECURITY SYSTEMS

タイガーエンボス

TAMACHI

RACING PROJECT BANDOH

## 予選コメント

### 【国本選手】



ここ最近、予選では良いパフォーマンスを出せています。  
今回はポールが取れそうなタイムでしたが僅差で2番手となってしまいました。  
明日はフロントローからのスタートなので僕がスタートで逆転して優勝に導けるように全力で走ります。応援よろしくお願いします。

### 【宮田選手】



2番手でした。ベストは尽くしました。  
ほんの少し足りませんでした。  
少しずつ結果は出ています。  
悔しいですが去年は僅差で2番手とかの予選はなかったので全てが向上してるのだと実感しています。  
強さと速さは見せることが出来ました。  
予選位置的に優勝は十分狙えるので優勝できるように全力で走ります。

### 【坂東監督】



富士では100分の3秒差でポール  
今回は100分の5秒差で2位  
凄い世界ですよ・・・  
違うエンジンで違うタイヤで、違うドライバーで、もっとこのタイム差の凄さが伝わるように僕も伝える人間として努力します。  
二人のドライバーは100点でした。  
マシンもタイヤも僕的には僕の想定タイムより速かったので100点です。  
結果は2番なので足りないものをレース後に分析します。

まずは3戦終わって2戦 GR SUPRA 勢 TOP なのでヨコハマタイヤの速さも現時点では実証されました。

## 決勝

当日も快晴に恵まれたツインリンクもてぎ。予選では宮田選手が Q2 にて 2 番手タイムを叩き出し、決勝を 1 列目フロントローから迎えることが出来た。

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

RUTEA

Jms

OKANO Express

IGNITION POINT

DiESLAID

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会

WOODOO RIDE



WellVets - Animal Welfare Group -

KBC DENTAL CLINIC

GLOBAL RACING SYSTEMS

SENET Fire

TAMACHI

RACING PROJECT BANDOH

気温/路面温度が 33/51 度とレースには厳しい環境となり、チーム戦略が勝利の鍵を握る。激しい戦いが予想される中、国本選手そして宮田選手は 19 号車を表彰台の頂点に導く事が出来るか。

スタートドライバーは国本選手。13 時 10 分にフォーメーションラップが始まった。2 周周回を行い、ローリングスタートでレースの火ぶたが切られた。スタート時の混乱は無く綺麗なスタートとなり、19 号車は 2 番手のまま、前の 1 号車を追う展開となる。スタートで 3 位に上がった 36 号車が一時背後に付くが、少しずつ間が開くと共に、2 周目に 1.5 秒差が付いたが、徐々にタイヤ内圧も上がり、タイヤのウォームアップも終了しトップとの差を詰めに行く。1 回目の 300 クラスに追いつく 7 周目に、第 5 コーナー入り口でアウトから 1 号車に襲いかかり、S 字コーナー手前で前に出てトップに躍り出る。

そのまま 19 号車は前の 300 クラスを右に左に抜きつつも、2 位の 1 号車を引き離しにかかる。

10 周目で 2 位との差が 1.9 秒、15 周目で 2.8 秒差。

18 周目で 4.1 秒差と、2 位との差を開けつつ独走態勢に入った。25 周前後で NSX 勢がピット作業に入る中、NSX 勢のアンダーカットを阻止するべく 43 秒フラットで周回する 19 号車は 27 周目で 2 位の 36 号車とのギャップは 8 秒 1 の差でトップを快走する。

28 周目にピットインし、ドライバーを宮田選手に、燃料とタイヤ交換をして送り出すものの、ピット出口で実質 2 位の 1 号車にパスされてしまい、実質 2 位に落ちてしまう。

しかし、ピットアウト後、タイヤが暖まると 1 号車の追撃に掛かり、32 周目で 4.4 秒差あったものが、34 周目で 3.1 秒差に、そして、35 周目のダウンヒルストレートで 1 秒差以内のところまで追いついてきた。36 周目から 1 号車の背後に付くと、随所でオーバーテイクの機会をうかがう。激しい 1 位争いが繰り

広げられる中、41 周目に 300 クラスの車が車両火災でファイヤーステーションに止まった関係で、42 周目に FCY が出る。43 周目に FCY が解除されると、1 位争いが再開される (トップの 1 号車との差は 1 秒 6)。

44 周目の最終コーナーにて 64 号車と 300 クラスの車との接触があり、車両回収のため 46 周目に 2 度目の FCY が出た。47 周目に FCY が解除された (トップの 1 号車との差は 3 秒)。

宮田選手は 19 号車に鞭を入れ、52 周目にはギャップを 1.2 秒までに縮め、再びトップへ追撃に入る。残り 9 周でコンマ 7 秒まで縮めたが、トップには届かず、2 位でチェッカーを受けた。

レースはポールポジションの 1 号車がトップをキープしたものの、7 周目に 19 号車がトップに出ると 2 位



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms

OKANO Express

IGNITION POINT

DIESLAID

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会

uoodoo ride

WellVets  
— Animal Welfare Group —

KEC

GLOBAL

GLOBAL

TAMACHI

TAMACHI

RACING PROJECT BANDOH

との差を広げて独走態勢に。

しかし、1号車がピット戦略でアンダーカットに成功し、29周目の19号車のピット作業にて再びトップに返り咲くと、再三の19号車の追撃に耐え、1号車がトップでチェッカー。2位が19号車。

以下、36-16-8-3-37-38-23-39-12-24-14-17-64。

今期初表彰台2位を獲得することが出来ました。

表彰台は2019年第4戦タイランド以来となります。

次こそは表彰台のトップを目指して爆走していきます。

皆様のご声援、誠にありがとうございました。

次戦は、8月21日(土)~22(日)に鈴鹿サーキットで開催

される「FUJIMAKI GROUP SUZUKA GT 300km RACE」

です。



### 決勝コメント

#### 【国本選手】



2番手からのスタートで、1周目に絶対前を抜くつもりでいたんですが、ウォームアップは向こうの方が良く、1周目はチャンスがありませんでした。逆に後から36号車に迫られて厳しい場面もありましたが、タイヤが暖まってからは良いペースで走れました。ちょうどトラフィックが来たときに、タイヤ的にも一番ピークな時があって、チャンスはここしかないと思っていて、運良く4コーナー、一番引っかけたらロスするようなところで前が引っかけたので、ここは絶対逃すまいとブレーキングで勝負して、抜くことができました。

その後もペースは良かったですし、トラフィックの巡り合わせもすごく良くて、ギャップを作ることができたので、そういった部分では、僕のステイメントでは運も味方してくれてトップを守ることができました。結果としての2位はちょっと悔しいですけども、ただ、長い間結果が出ていなかったのも、悔しい反面、ほっとしているというか、これから良い流れに乗れるように頑張りたいです。

#### 【宮田選手】



国本選手がトップに出ることができて、ペースは良かったのですが、ライバルの燃費の良さだったりとか、そういう所で負けてしまって先行を許してしまいました。そうは言っても、5秒くらい差があったのをなんとか射程圏内まで持って行けたのですが、そのあとFCYとか様々な要因で、僕らには運が向いてなくて、優勝することはできませんでした。本当は勝ちたかったのですが、去年の今頃はポイントを取れるか否かの状況だったので、それをここまで来られたというのはみんなの努力が、結果として身になっているので、悔しいと思えるこの時間が本当に幸せだと思いますし、



もっとこれから、予選もそうですが、決勝もトップ争いができるように、努力し続けて優勝を目指して頑張ります。次の鈴鹿はちょっとウェイトを積む状況でのレースになると思うので、正直ウェイトを積んだ状態での車のパフォーマンスは未知数なのですが、暑い鈴鹿も 1000km では調子よかったですし、貪欲に結果を求めてプッシュしたいと思います。

【坂東監督】



お待たせしました。優勝とはいきませんでした。GR SUPRA に変わった 2020 は一度も表彰台に乗れなかったのが、GR SUPRA 初表彰台獲得となりました。

シーズン前から茂木は狙っていたので悔しいですが、横浜ゴムさんの開発タイヤがレース結果に繋がったので、まずは横浜ゴム様、ありがとうございました。

また、これから勝負です。もっと良いタイヤを共に開発していきましょう！って伝えました。

国本選手のオーバーテイク、莉朋選手のファーステスト（ちなみに莉朋選手がタイムを出すまでは国本選手でした。）

良いところがたくさんあったレースでした。

平均 10LAP の全車のアベレージでも国本、宮田選手が全体で 1-2 でした。

沢山の応援ありがとうございました。

今シーズンまずは 1 勝目指して次戦以降も全力で努力致します。

今後とも応援よろしくお願い致します。